

	理工学部機械工学科
DP	<p>機械工学科は、本学立学の精神と本学科人材養成目的に基づき、機械工学科において4年以上在学し、学科が定める卒業に必要な124単位以上を修得した上で、以下の要件;①、②、③を満たす学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与します。</p> <p>①機械技術者として必要な教養と倫理観を有し、技術者としての社会的責任を自覚した上で、広い視野を持って判断できる。</p> <p>②機械技術者として専門的な基礎学力と科学技術の応用力を持ち、時代のニーズに適合した技術を活用できる。</p> <p>③自立した技術者として問題を発見し、課題解決に向けて主体的に学ぶと同時に他者と協働して取り組むことで、社会から信頼される資質を有する。</p>
CP	<p>機械工学科は、本学科の教育目標を達成し、学位授与方針に示す資質・能力を身につけさせるため、次のような教育課程を編成し、実施します。</p> <p>①教養教育は、外国語、体育科学、人文科学、社会科学等の教養科目と、数学、物理学、化学、技術者倫理等の理工学基礎科目を通じて、人として必要な教養と倫理観を養うことにより幅広い人間性を培い、全地球的な視野で物事を理解し、表現できるようにする。</p> <p>②専門教育では、「熱・流体」、「材料・強度」、「設計・生産」、「運動力学・制御」の4つの分野と共通分野から成る科目群を基礎から応用へと段階的に構成することでその内容を充実させ、機械技術者に必要な基礎学力を養う。さらに、それらを機械工学実習や機械設計基礎などの設計・実習科目の教育と有機的に結びつけることによってもものづくり力を養成する。</p> <p>③機械工学科では、1年次に開講される機械工学概論ならびに機械工学実習で、学生への動機付けを行うとともに、実感教育を実施する。さらに、1～3学年に配当される機械設計基礎、機械設計1・2、機械工学実験において能動的学修の要素を取り入れ、自主性と自立性を養う。さらに、3年次の機械工学実験や機械設計・製作では、専門的な基礎学力と科学技術応用力を駆使して、課題解決に向けて協働して取り組むことを学ぶ。最終学年(4年次)の卒業研究では、自立した技術者として問題を発見し、解決する能力が培われるようにする。これらの教育により、生涯にわたって主体的に学び、相互理解や意見交換ができる素地を育む。</p> <p>④機械工学科では、シラバスに示した内容に基づき厳格に成績を評価して単位認定を行い、学生個別の成績表に基づき学修指導や各種順位づけを行う。担任や卒業研究担当者等が学生の成績や学修態度を総合的に判断して個別指導する体制を整え、学生個々の達成度と将来計画に応じて学修を進めることができるようにする。</p>
AP	<p>機械工学科は、本学科の卒業認定・学位授与の方針を理解し、高等学校等における学習を通して、次のような資質・能力を身につけている人を受入れます。</p> <p>①一般選抜では、数学、理科および英語の高い基礎学力を有する。学校推薦型選抜・特別入学試験では、高等学校教育の内容を堅実に修得し、数学、理科および英語の基礎学力を有する。</p> <p>②数学、理科および英語の基礎学力を活用して、自ら問題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するための基本となる思考力・判断力・表現力等を有する。</p> <p>③機械工学分野を中心とする科学・技術に興味をもった上で自主性と粘り強く学ぶ意思があり、主体性を持って多様な人々と協力して、機械工学分野の科学・技術を用いて社会貢献する意欲を有する。</p>
アセスメント・ポリシー	<p>学科レベルでは、ディプロマポリシーの科目群ごとのGPAの数値に加えて、単位取得状況、学修行動調査、卒業時調査及び学生アンケートにより評価する。</p> <p>科目レベルでは、シラバスに記載してある方法で成績評価を行う。評価は、テストやレポートなど科目の内容に合わせた方法で実施する。</p> <p>卒業研究については、学科が定める評価基準に基づいて卒業論文等の成果を評価し、学科レベルでは、その集計値で評価する。</p>